市立貝塚病院広報誌
KAIZUKA
Kaizuka City Hospital
Vol. 28
2019 9月

コスモスだより

【ニューストピックス】

低侵襲外科手術センター

産婦人科の腹腔鏡下手術

【診療紹介】
小児科『夜尿症の治療』
外科・消化器外科『肛門外来』
認定看護師による『総合看護相談』

【お知らせ】
病院ボランティア：七夕飾り「星に願いを」
「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」のご案内
「第74回市民公開講座」開催のお知らせ
「第32回貝塚市民健康まつり」のご案内
「創立80周年記念病院祭」開催のお知らせ
「第9回こすもす懇話会」のご報告

病院の理念 基本方針

地域住民を守る良質な医療の提供

1．医療を通じ患者さんの歓びが自らの歓びになるような職業人をめざします。
2．常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3．患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4．地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。

発行：市立貝塚病院 広報委員会

低侵襲外科手術センター

産婦人科の腹腔鏡下手術

昨年 10 月、身体に優しい外科手術（腹腔鏡下手術）をより安全に行い、より多くの手術に対応できるよう【低侵襲外科手術センター】がスタートしました。

今回は、【低侵襲外科手術センター】の一翼である産婦人科（婦人科腫瘍センター）の腹腔鏡下手術についてご紹介します。

身体への負担が少なく低侵襲な 腹腔鏡下手術

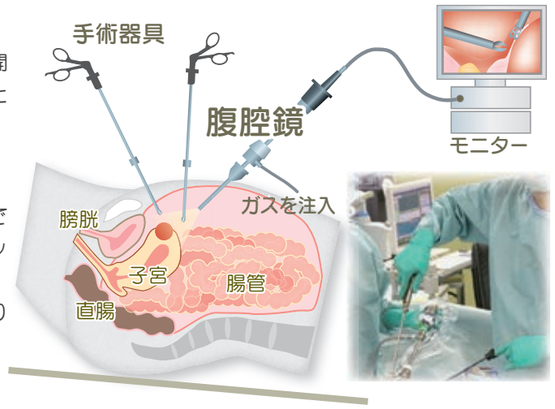
「腹腔鏡」とは

腹腔鏡は内視鏡の一種で、腹部を小さく切開して孔を開け、そこから先端を差し込んで使用します。先端にカメラと光源があり、体内の臓器の表面を観察することができます。

「腹腔鏡下手術」とは

「腹腔鏡下手術」は、「腹腔鏡」からの映像をモニターで確認しながら、腹部に開けた小さな孔から挿入したマジックハンドのような特殊器具を使用して行います。

「開腹手術」と「腹腔鏡下手術」は、手術の方法は異なりますが手術の内容は変わりません。



腹腔鏡下手術のメリット

痛みが少なく回復が早い

痛みが少ないため、身体機能への負担も減り、早い回復につながります。

早期退院・早期社会復帰

早期に退院・早期社会復帰することで、経済的負担だけでなく、精神的負担も軽減することができます。

傷が小さい

癒着が少ない

【例：子宮がん手術の創部（傷跡）】

（開腹手術の一例）　（腹腔鏡下手術の一例）

癒着が少ないため、妊孕性（妊娠する力）の保持に有用

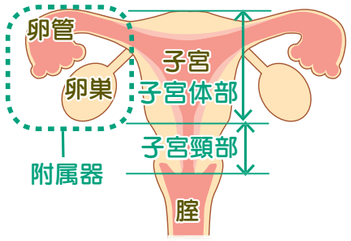
組織が癒着することで、腹痛・腸閉塞など術後合併症が起こる場合があります。卵管などに癒着が起これば、不妊症になる可能性も。腹腔鏡下手術では癒着が起こりにくいため、妊娠を希望される女性には特に有用です。

モニターに映された画像で細部を見ながら手術できる

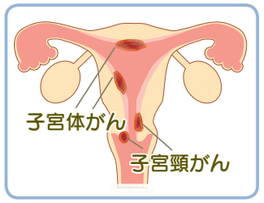
- 拡大した手術部分をモニターで見ながらの作業のため、細かい部分が見えやすくなり、骨盤内の死角も解消します。
- スタッフ全員が同じ視野を共有でき状況を把握できることで、安全に手術が行えます。

産婦人科での主な腹腔鏡下手術

悪性腫瘍（早期子宮体がん・子宮頸がん）も腹腔鏡下での手術を行っています。

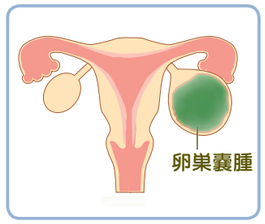


腹腔鏡下手術の主な適応疾患と手術内容



子宮悪性腫瘍手術

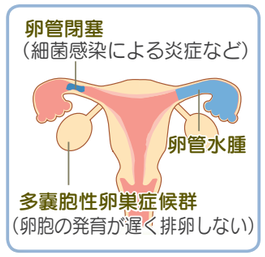
当院は施設認定を受けており、早期子宮体がん・子宮頸がんに対しての根治手術が実施できます。⇒詳細次ページ



卵巣嚢腫

卵巣内に液体や組織が溜まって肥大したもの。

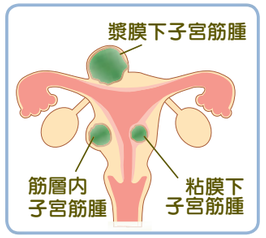
卵巣機能を温存する場合は病巣のみを切除し、妊娠の希望がない場合は病巣側の卵巣や卵管を切除します。



不妊症

不妊の多くは、何らかの原因で卵管が詰まることと、卵子に起因します。

卵管の詰まりを解消する卵管形成、病巣のある卵管切除などの治療の他、不妊症検査も腹腔鏡で行います。



子宮筋腫

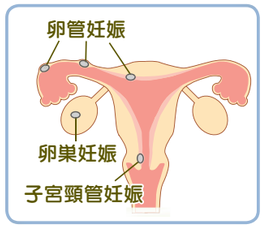
子宮の壁の中にできる堅いこぶ状の腫瘍です。

妊孕性を温存する場合は筋腫だけを取り出し、妊娠希望がない場合は子宮そのものを摘出します。

子宮内膜症

子宮内膜に似た組織が子宮以外の場所に散らばり、臓器の癒着が起こります。不妊の原因にもなります。

癒着の剥離や子宮内膜組織の除去を行います。



子宮外妊娠

子宮外妊娠の 98％は卵管妊娠です。卵管を温存する場合は、妊娠組織のみを取り出し、卵管温存に適応しない場合は、卵管全体を切除します。

◆ 難易度が高い病状も、高い技術で腹腔鏡下手術を実施

大塚 博文（産婦人科部長）

【資格】
日本産科婦人科学会専門医
日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医

腹腔鏡下手術の「傷が小さい」「癒着が起こりにくい」というメリットは、婦人科疾患での有用性が非常に高いと言えます。婦人科の疾患、特に良性疾患では若い患者さんも多いですから、できるだけ傷は残したくない、不妊症の原因となる癒着の発生はできるだけ抑えたい……そのため当院では、適応疾患のほとんどを腹腔鏡下で行っています。良性疾患でも、大きな子宮筋腫や癒着のきつい内膜症の場合、技術的な難しさから開腹手術になる場合が多いのですが、そうした高難度な病状であっても腹腔鏡下で行っているのが当院の特徴です。

その技術の裏付けになるのが、当院の手術件数の多さと経験値の高さに加え、チームワークの良さだと考えています。例えば、腹腔鏡下手術で術者の目となる腹腔鏡（カメラ）は助手が操作しますから、内視鏡独特の視野の出し方が分かっていなければ術者の見たい所が見えません。術者 1 人が上手くてもスムーズには進まないのです。

当院は、産婦人科医が各種認定医や専門医の全ての取得を目指すことができる数少ない施設の一つです。手術件数が多いからこそ、若手の医師が助手として多くの経験を積みながら、術者としての技術を磨いていける。教育も当院の大事な役割です。

低侵襲外科手術センター

腹腔鏡による子宮の悪性腫瘍手術

腹腔鏡による子宮体がん･子宮頸がんの根治手術（子宮悪性腫瘍手術）を保険適用で行うことのできる施設認定を取得しています。

子宮悪性腫瘍（子宮体がん・子宮頸がん）の腹腔鏡下での根治手術は、病気の状況が適応の範囲内で認定施設での手術であるなど、一定の基準を満たせば保険診療として行うことができます。当院は、実績や技術・診療体制が認められ、保険適用となる前の先進医療の段階で施設認定を取得しています。

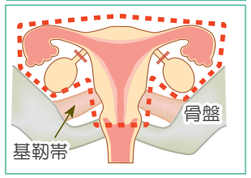
◎ 子宮体がんに対する手術 ◎

平成 25 年 10 月に、先進医療として施設認定を取得。平成 26 年4月1日からは保険適用となりました。

◎ 子宮頸がんに対する手術 ◎

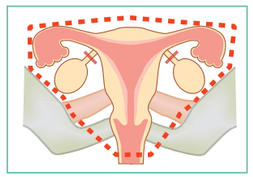
平成 28 年 10 月に、先進医療として施設認定を取得。平成 30 年4月1日からは保険適用となりました。

単純子宮全摘出術



子宮全摘出＋両側面附属器（卵巣・卵管）摘出。
※卵巣は温存する場合もあります。

広汎子宮全摘出術

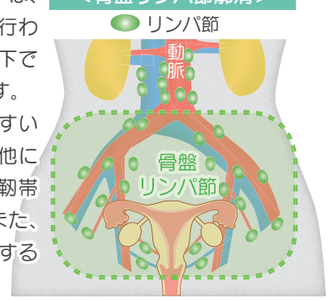


右記に加え、腟部摘出＋骨盤内組織（基靭帯）切除。
※卵巣は温存する場合もあります。

「広汎子宮全摘出術」は、子宮体がん・頸がん共に行われる術式ですが、腹腔鏡下では子宮頸がんで行われます。

子宮頸がんは広がりやすい性質があるため、子宮の他に腟や子宮と骨盤をつなぐ靭帯（基靭帯）も切除します。また、骨盤内のリンパ節も摘出する場合がほとんどです。

＜骨盤リンパ節廓清＞



◆ より安全で安心な腹腔鏡下手術のための研鑽と、患者さんへの情報の開示

横井 猛
（診療局長 兼 産婦人科主任部長
兼 婦人科腫瘍センター長）

【資格】
日本産科婦人科学会専門医・指導医
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医・暫定指導医
日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医・技術認定審査員
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

婦人科分野の悪性疾患での腹腔鏡下手術は、泌尿器領域や消化器領域に比べ導入が遅れていましたが、平成 26 年には子宮体がんが、平成 30 年には子宮頸がんが保険適用となりました。しかし、施設認定を受けていなければ保険適用とはならず、認定を受けている施設はまだまだ少ないのが現状の中、当院はその数少ない認定施設の一つです。

腹腔鏡下手術のメリットは大きいですが、まず重要なのは安全性。そのため、施設認定に必要な「日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医」だけでなく「日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医」との協力体制で手術を行うことが推奨されており、当院では私が腫瘍専門医の資格を取得しています。取得には５～７年に及ぶ指定施設での手術実績や論文･試験が必要ですが、今あの修練が活かされていることを大変ありがたく思っています。当院では、難易度の高い「広汎子宮全摘出術」でも、開腹手術と比較し再発率が高いというデータは現時点ではなく、大きな合併症もゼロです。また、特に高難度の「広汎子宮全摘出術」に適応する患者さんには、ご納得して手術に臨んでいただけるよう、当院の実績や海外でのデータなどをしっかりと開示しご説明しています。

小児科「夜尿症の治療」

「小学生になっても、おねしょが治らない」とお悩みの方へ

尿失禁には、「尿量が多い」「膀胱の溜めが悪い」などの原因が考えられ、その原因や状況に合わせて、生活指導・薬物療法・アラーム療法などの治療方法を適切に選択することが大切です。例えば膀胱の溜めが悪い場合、溜める量を増やすため排尿をなるべく我慢する「排尿抑制訓練」が必要で、頻繁に排尿させると逆効果になってしまいます。

夜尿症は、性格や育て方が原因ではありません。あせらず、起こさず、怒らず、責めず、根気強い治療が必要！ 中には、排尿障害を伴っている場合もあります。まずは、小児科医にご相談ください。

【診療科】小児科（一般外来）
【診察日】月～金曜日
（受付 8：00 ～ 11：30 ）
※専門外来（腎疾患外来）での診察は２回目以降となります。

＝ご紹介いただく先生へ＝
専門外来のご予約は、地域医療連携室にご依頼ください。

外科・消化器外科「肛門外来」

肛門痛・出血・かゆみなどでお悩みの方へ

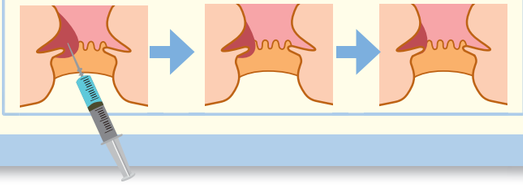
切れ痔（裂肛）・いぼ痔（痔核）・あな痔（痔瘻）や直腸脱、肛門ポリープなど、肛門疾患の薬物療法や手術を行っています。痔核には、旧来の結紮切除術に加え切らずに治す注射療法（ジオン注射）も行っています。

早期に治療すれば、生活改善や薬物治療で改善できます。また、排便時の出血は痔ではなくがんの可能性もありますので、「恥ずかしい」と躊躇せず是非ご相談ください。

肛門専門外来

【診療科】外科・消化器外科
【診察日】第１木曜日
（受付 8：00 ～ 11：30 ）
【担当医】宮崎 道彦　道仁病院院長
※外科（一般外科）でも診察しています。
月～金曜日（受付 8：00 ～ 11：30）

《ジオン注射＝痔核に直接注射して縮小させる治療法》



認定看護師による「総合看護相談」

病気のこと、治療のこと、生活への不安 …… 一人で悩んでいませんか？

患者さまとご家族の様々な不安を認定看護師にご相談ください。無料でお話を伺います。
※お越しいただいた順に対応しています。
診察の待ち時間等をご利用ください。

【開催日】月～金曜日（9:00 ～ 12:00 ）
【場　所】１階売店裏側　相談室５

■ 病院ボランティア 想いを込めた七夕飾り「星に願いを」

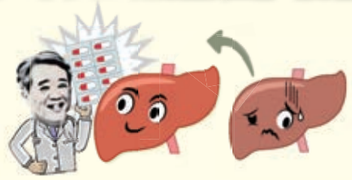
今年も病院ボランティア「こすもす会」の皆様による七夕の飾りつけが行われました。

大きな天の川には入院患者様の願いが記載された星型カードを、両サイドの笹には医師・看護師等の職員や外来患者様の願いが記載された短冊をデコレーションしました。色とりどりの星には皆様の思い思いの願い事が書かれていました。どうか皆様の願いが届きますように！！

■「第 74 回 市立貝塚病院 市民公開講座」開催のお知らせ

令和元年 9月26日（木）

【テーマ】ウイルス性肝炎の最新治療



【日　時】9月 26 日（木）　14:00 ～ 15:00
【講　師】市立貝塚病院 消化器内科　山田 幸則
【場　所】市立貝塚病院 7階講義室
【費　用】無料（定員 70 名　要予約）
【申込・お問い合わせ】 市立貝塚病院 地域医療連携室　☎ 072-422-5865
※ 1 階総合案内でも予約受付しております。
※ FAX 受付：072-439-6061（お名前・連絡先・申込する講座テーマ・日程を記入のうえ送信してください）
《共　催》貝塚市医師会／泉州がん診療連携（ネットワーク）協議会　肝炎肝がん対策部会

《手話通訳あり》

■「第 32 回貝塚市民健康まつり」のご案内

令和元年 9月29日（日）

「自分の健康は自分でつくり自分で守る」という貝塚市の健康都市宣言に基づき、毎年開催される貝塚市民健康まつり。市立貝塚病院は今年もブースを出して参加します。毎年好評の禁煙相談コーナーに加え、今年は、認定看護師による総合看護相談やがん相談、乳がん自己検診講座などを予定しています。ご近所お誘いあわせのうえ、是非ご参加ください。

【日　時】9月 29 日（日）10:00 ～ 12:00
【場　所】市立保健センター（保健・福祉合同庁舎）

■「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2019 泉州かいづか」のご案内

令和元年 10月26日（土）

リレー・フォー・ライフは、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らが夜通し交代で歩き、勇気と希望を分かち合うチャリティーイベントです。市立貝塚病院は毎年このイベントに参加、講演会なども行っています。がんのサバイバーとして、支援者として、あなたも参加してみませんか。

【日　時】10 月 26 日（土）13:00 開会式 ～ 27 日（日）13:00 閉会式
【場　所】二色の浜　貝塚市民の森・シェルシアター

医療講演会「がん患者･家族が医療者に伝えてくれること」
【日　時】10 月 26 日（土）17:00 ～　【講　師】市立貝塚病院 緩和ケア専従医　川上 寛明
【お問い合わせ】 市立貝塚病院 医事課　☎ 072-422-5865

市立貝塚病院は 令和元年 9月 創立 80 周年 を迎えます

市立貝塚病院は、昭和 14 年 9 月 25 日、町立貝塚病院として設立し、病床数 27 床から歴史が始まりました。地域の医療機関の皆様に支えていただき、おかげさまで、本年で創立 80 周年を迎えることができました。あらためて地域の皆様に感謝申し上げます。これからも地域の中核病院として「地域住民を守る良質な医療の提供」に努めてまいります。

《設立当初の病院》

■「創立 80 周年記念病院祭」開催のお知らせ

令和元年 12月1日（日）

テーマ：病院祭ふれ愛デー ～ 感謝とともに 地域とともに ～

創立 80 周年を迎える今年の病院祭は、特別なお祭りです！そこで、80 年の歴史を振り返り、《感謝》と《地域とともに》という思いを込めたテーマを掲げました。この一日､病院が地域の皆さんとの《愛》あふれる《ふれあいの場》となれるよう、職員が知恵を出し合って、様々なイベントを企画しています。

今年は、例年の模擬店や健診コーナー・パネル展示・抽選会などの内容を更に充実。 それに加え､「80 周年記念式典」の他､園児から学生を対象とした「病院のお仕事体験（事前申込制）」なども計画中です。

職員一同、地域の皆様と楽しい一日が過ごせることを楽しみにしています。ご家族揃って、是非お越しください。

【日　時】12 月 1 日（日）　9:30 ～ 15:00（予定）

地域連携ニュース

■ 創立 80 周年記念「第9回こすもす懇話会」のご報告

【日時】令和元年 6 月 22 日（土）　【場所】コスモスシアター中ホール

《一般講演》
「糖尿病非合併の非アルコール性脂肪性肝疾患における線維化寄与因子は空腹時インスリンである」
初期研修医（消化器内科）佐々木 華子
「ケロイド･肥厚性瘢痕の診断と治療」　形成外科部長　望月 祐一
《特別講演》
「限局性前立腺癌に対する強度変調放射線治療の有用性について」
診療局長兼泌尿器科部長　江左 篤宣
「生活習慣と消化器疾患」総長　佐々木 裕

「こすもす懇話会」は、地域の医療環境の充実、患者様のスムーズな治療に結びつけることを目的に開催されています。今回は、医師会・歯科医師会・薬剤師会の先生方や訪問看護ステーションの方々、及び当院職員の総勢 142 名が参加しました。今年は、当院創立 80 周年の節目を迎え､地域の先生方のご支援･ご協力に感謝をお伝えしました。講演会では、熱心な質疑応答がなされ、その後の情報交換会でも、当院への様々なご意見を頂戴しました。職員一同身を引き締めて、これからも皆様のご支援にお応えし「地域住民を守る良質な医療の提供」に努め､地域医療をともに支えていきたいと思います。